

## 公開授業D

### 第3学年2組 英語科学習指導案

指導者 村木 繭 名

- 1 日時・場所 平成27年10月27日(木) 第5校時 3年2組教室 (男子19名、女子20名)
- 2 単元 「Who learned what by losing? (Unit 4 Learn by Losing)」
- 3 単元の目標
  - (1) ペアワークやグループワークにおいて、失敗を恐れずに英語で話す。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
  - (2) 「疑問詞＋不定詞」の形・意味・用法を知り、表現できる。 (言語知識・表現)
  - (3) 「it is ... for ～ to ～」の形・意味・用法を知り、表現できる。 (言語知識・表現)
  - (4) 「want ... to ～」の形・意味・用法を知り、表現できる。 (言語知識・表現)
  - (5) 内容を理解し、失敗から学んだ自分のエピソードを英文で書いて発表できる。 (理解・表現)
- 4 単元のとらえ方

#### <こんな生徒たちを・・・>

- ・長文を見るだけで理解することをあきらめてしまったり、目を反らしてしまったりする生徒
- ・繰り返し書く活動には地道に取り組むが、発音練習にはやや消極的な生徒
- ・自分の考えや意見に自信がもてず、失敗することを恐れている生徒

#### <ねがいは・・・>

本学級の生徒の半数以上の生徒は、英語が「とても好き」または「好き」と答えている。一方で、テストを経験する中で、長文読解に対して強い苦手意識をもっており、長文を見ただけで読むことを止めてしまったり、諦めてしまったりする生徒がいる。そのような生徒たちが、まずは「読んでみよう。」と思うようになり、さらに部分的に内容を推測できるようになることを願って、様々なリーディングの手だてを取り入れることで意欲的にリーディングに取り組む気持ちを高めさせたい。

#### <この単元は・・・>

本単元は、外国人力士たちの日本語との格闘の中で生まれた失敗談や、相撲界での教訓が紹介されている。文法事項としては、Starting Out では「疑問詞＋to do」、Dialog では「it ～ for 人 to do」、Reading for communication では「want 人 to do」が取り上げられている。これらを用いて自分のことについて説明することができるだけでなく、相手に尋ねたりお願いしたりするコミュニケーション活動が可能になる。その際、to のあとに続く動詞は原形を用いることや、for や want のあとに続く人称は目的格になるという既習事項も再確認することができる。また、日本の国技である相撲を扱っていることから、本単元を通じ、日本の文化にさらに目を向け、興味・関心をもたせる良い機会になると考える。また、自分の経験から学んだことを積極的に級友に伝える活動を行うことができる単元である。

#### <こんな手立てで・・・>

近い将来、高校や大学、そして社会に出ても長文の英文を目にする機会はますます増えていくだろう。各単元の後に行っている単元テストの結果を分析してみたところ、物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読みとることが苦手であることが分かった。そのため、4技能の中でも「読むこと」の中の内容理解に重点を置いて指導をしていくことで、力をつけることが期待できる。また、さらに内容理解の力の向上を目指し、ジグソーリーディングで初めて目にする文を読んだり、教師の失敗から学んだことのエピソードを読んでもどの教師の話なのかを推測したりすることで、英語に苦手意識のある生徒たちにも、意欲をもって取り組むきっかけとなると考える。

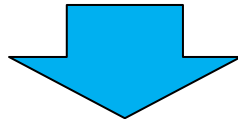
#### <こんな生徒に・・・>

- ・長文を部分的に理解し、内容を推測できる生徒
- ・元気に発音練習し、英文を意欲的に読もうとする生徒
- ・自分の失敗から学んだ経験を英文で書くことで、自信をもって意見を発表できる生徒

5 単元構想図（10時間完了）

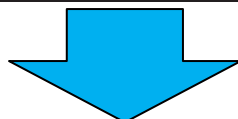
導入「相撲について知ろう」

生徒の活動	教師の支援・手だて
第①②時 中心技能：聞く、書く 「相撲について調べよう」 ・日本の国技である相撲に関連することについてインターネットを使って調べる。 ・調べたことをレポートにまとめる。英文で書ける場所は英文で書く。 ・自分の経験した「失敗から学んだこと」について英文で書いて発表することの予告を聞く。	・レポート作成に意欲的に取り組めるよう、生徒たちがまとめるレポートの形式を提示する。 ・級友が興味をもったことや調べたことから学べるように、完成したレポートは教室後方に掲示する。



基礎・基本「基本表現を学ぼう」

生徒の活動	教師の支援・手だて
第③④時 中心技能：4技能すべて 「疑問詞＋不定詞の形・意味・用法を知ろう」 ・疑問詞＋不定詞の形・意味・用法を理解する。 ・疑問詞＋不定詞のさまざまな形にふれ、文を書く。 ・疑問詞＋不定詞を使ったチャンツを歌う。 ・本文の内容理解をする。 ・Listen で聞き取り、聞き取ったことを Speak で話す。 ・本文の暗唱をする。	・視覚的な理解を促すため、疑問詞＋不定詞の形を覚えられるようフラッシュカードを用いる。 ・疑問詞＋不定詞の形を定着させるため、様々な疑問詞を使った文を書く。 ・チャンツでリズムよく音読することで、さらなる定着を図る。
第⑤⑥時 中心技能：4技能すべて 「it is ... for — to ～の形・意味・用法を知ろう」 ・it is ... for — to ～の形・意味・用法を理解する。 ・本文の内容を理解する。 ・級友にとって簡単なことや難しいことについてたずねる活動に取り組む。 ・オセロを使ったゲームを通して、it is ... for — to ～の文に対する理解を深める。 ・並べ替えの問題に取り組ませることで正しい文の順序を理解する。	・オセロゲームを取り入れて、さまざまな文を考えさせる。 ・to のあとに続く動詞は原形を用いることや、for や want のあとに続く人称は目的格になることを再確認する。 ・さらに基本表現への理解を深めるために活動で使った文を書かせる。
第⑦⑧時 中心技能：読む、書く、話す 「want ... to ～の形・意味・用法を知ろう」 ・want ... to ～の形・意味・用法を理解する。 ・本文の内容理解をする。 ・ジグソーリーディングで正しい文の順序を理解し、大意をつかむ。 ・教師の「失敗から学んだこと」のエピソードを読んで、どの教師のエピソードなのかを当てる活動をする。 (本時 8/10)	・既習の tell や need などの様々な動詞を用いることのできる構文であることを伝えて理解を深める。 ・教師が実際に失敗から学んだエピソードを英文にして読ませることで、長文理解への意欲を高める。



発展「自分の失敗から学んだことを級友に伝えよう」

生徒の活動	教師の支援・手だて
第⑨⑩時 中心技能：4技能すべて 「自分の経験した『失敗から学んだこと』について英文で書いて発表しよう」 ・教師の書いたエピソードを参考にしながら、自分の経験した「失敗から学んだこと」について英文で書く。 ・自分の考えを日本語でまとめ、分からない語は辞書を使って調べて英作文する。 ・自分の経験を級友の前で発表する中で、互いの良いところを見つける。	・言いたいことを明確にするために初めは日本語で書かせ、それを英文にする。 ・英語が苦手な生徒が相談しながら英文を書くことができるように3～4人班で行う。 ・班で発表し合うことで、緊張せずに発表できるようにする。

6 本時の指導

(1) 目標

- ・ジグソーリーディングで、話の流れを理解し、並べかえることができる。(理解)
- ・仲間と協力し、どの教師が書いたエピソードかを意欲的に考えることができる。(意欲・関心)

(2) 準備

電子黒板、ワークシート、振り返りシート

(3) 学習過程

段階	生徒の学習	○教師の支援 ※評価
導入 (5)	1 ペアで1分間の会話活動をする。 ・ One more question を発表する。 ・ 代表生徒の発表した文を復唱する。	○ 会話が續かないペアがあればヒントを与える。 ○ 発表した生徒に続いて復唱させることで、自信をつけさせる。
展開 (40)	2 本日の活動について知る。 3 本文の音読練習をする。 ・ チャンクリーディングする。 ・ ピリオドリーディングする。 ・ セルフリーディングする。	○ 文中の発音しづらい語や発音に必要な語は先に読ませる。読めるようになってから意味のかたまりに戻って読ませることで、読みが苦手な生徒も自信をもって読めるようにする。 ○ リズムよく復唱させることで、口の動きを覚えてスムーズに読めるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;">Let's try "Jigsaw reading".</div>	
	4 話の内容を理解する。 ・ 机を3～4人班に移動させる。 ・ ワークシートに書かれている文を、話が通るように並べかえる。 ・ 班で話し合い、並べかえの順番を確認する。 ・ 並べ替えの順番を発表する。 ・ 英文を読んで、読み取ったことを発表する。	○ 机の向きはT字にして話し合いがしやすいようにする。 ○ 机間指導をして、なかなか読み取りが進まない班には分担して内容を讀んだり、分からない部分を飛ばして分かる部分で内容を讀み進めたりすると分かりやすいことを助言する。 ※ジグソーリーディングで、話の流れを理解し、並べかえることができたか。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;">Who learned what by losing?</div>		
	5 リーディング活動をする。 ・ 3～4人班で行う。 ・ 教師が失敗から学んだエピソードを讀み、どの教師のエピソードなのかを班ごとに考えて、解答用紙に答えを書く。 ・ 電子黒板を見て答え合わせをする。	○ 未習語で、キーワードになるような語については意味を載せてヒントにする。 ○ 机間指導をして、既習の want 人 to do の表現の文の意味が理解できていなければ、前時のノートで確認させる。 ※級友と協力して積極的にエピソードを讀み、どの教師が書いたものかを推測できたか。
まとめ (5)	6 振り返りシートを記入して、今日学んだことを書く。 ・ 次回は、失敗から学んだことについて自分の経験をもとに5文程度で書きので、準備してくる。	○ 振り返りシートが書けた生徒は、次時に向けて want 人 to do を使った文を書く。 ※教師のエピソードを讀んで内容を理解し、自分の経験について発表するイメージができたか。

(4) 評価

- ・ジグソーリーディングで、初めて読む話の流れを考え、級友と協力して並べかえができたか。(ワークシート・活動の様子)
- ・教師が書いたエピソードを讀み、どの教師が書いた文かを意欲的に推測できたか。(発言・活動の様子)